



現状認識

さて、現在の燕市、そして  
未来の燕市について、皆さま  
はいかがお考えでしようか。  
燕市は、鈴木前市長のもと、人  
口に積極的に取り組んできた  
結果、新潟県内の20市中、人  
口減少率は少ない方から2番  
目を維持しております。しか  
しその一方で、出生数は、最  
新値で年間387人にまで減  
少しており、人口減少が進む  
大きな要因となっています。  
出生数の減少を抑制し、人  
口の減り幅ができるだけ緩や

を含む市職員としての行政経験、民間企業勤務での実務経験、自ら立ち上げた事業活動、そして、短い期間ではございませんが市議会議員として積み重ねてまいりました経験を基礎として、燕市民7万5千人の代表として、市民一人ひとりの声を大切にし、課題解決に全力で取り組む覚悟であります。時には市民の皆さまの先頭に立ち、また時に後ろ筋を切り開いてまいります。盾となりながら、市民の皆さんと力を合わせて未来への道

に加え、安定しない米価の影響を受け、農業経営は厳しい環境に置かれています。また、教育に目を向けていますと、近年、発達障がいへの認知が進んできたという背景もありますが、特別な配慮や支援を必要とする子どもたちが増加傾向にあります。

足や事業承継などに対応する必要があり、製造業を取り巻く環境は、依然厳しい状況にあります。

農業においても、生産コストの増加、地球温暖化による高温障害、従事者の高齢化に伴う扱い手不足といった課題に加え、安定しない米価の影響を受け、農業経営は厳しい環境に置かれています。

要ではありますが、人口減少が避けられない現実を前提とし、いかに本市の課題に適切に対応し、持続可能なまちづくりを進めていくのかということが、今後の市政運営において、さらに重要な要素になつてくるものと私は考えております。

燕市を支える産業界に目を向けますと、市内の事業所では、コロナ禍からの回復基調が一部には見られるものの、発注数の減少や物価高騰、人件費の上昇、そして労働力不

# 「稼ぐ」「育てる」「燕はひとつ」 未来をひらく3つの市政ビジョン

令和7年第4回燕市議会定例会において、佐野大輔市長が就任後初となる所信表明を行いました。

人口減少・産業構造の変化・子育て環境の多様化など、燕市を取り巻く状況が大きく変わる今、市長が掲げる理念は「みんなでつくる燕市」。市民・事業者・行政が力を合わせ、未来へ向けて歩み出すための3つの方向性「稼ぐ燕市」「育てる燕市」「燕はひとつ」を中心に、今後の市政運営方針について述べました。

まずは、このたびの市長就任にあたり、市民の皆さまから寄せられた信託の重責を擎り受け止めております。同時に、燕市のさらなる発展に寄与できる機会を得たことに、深い喜びと使命感を感じて、いる次第であります。

## みんなでつくる燕市を目指していきます

# 所信表明



決意

令和7年第4回燕市議会定例会の開会にあたり、所信を述べる機会を賜り、心よりお礼申し上げます。

このたび、合併後の燕市の第3代市長を拝命いたしました佐野大輔でございます。

これまで、私がを目指す市政につきましては、選挙運動や私自身のSNSなどにおいて皆さまにお伝えしてまいりましたが、本日はこの議場において、改めて今後の市政運営の方針、そして私が描く未来の燕市について述べさせていた

はじめに